

十周年を迎えて。—自分を信じ、今を生きる

金森 サヤ子（東京大学 医学系研究科国際地域保健学教室博士課程）

1998年に生物学類に入学した私たちは、今年で入学十周年を迎えます。

思い返せばあつという間の十年間。

在学中、幾度となく完成すると噂されていたつくばエクスプレスは卒業後3年の時を経て開通し、先日訪れた久しぶりのつくばの地は私たちが学生時代を過ごしたその風景とは様変わりしていて驚きました。つくば駅からキャンパスへ向かう道には新しいマンションが聳え立ち、当時は見たこともないようなお洒落なレストランやカフェが立ち並んでいます。それでも、ひとたびキャンパス内へ入ると、そこには変わらない景色も沢山ありました。ジャージを着て自転車に乗る学生たち。人通りの少ない、夜のペデ。そして、大学時代の仲間たち。変わった部分も沢山あるけれど、変わらぬものもあることに嬉しさと、そして少しの安堵感を覚えました。

在学中の皆さんは、十年後の自分がどうなっているか、想像がつかますか。

既に卒業されている皆さんは、今のつくばを目の前にして、当時の自分をどう思い返すでしょうか。

私は現在、東京大学医学系研究科国際地域保健学教室で博士課程に在籍し、日本とタイとの往復生活をしながら国際開発の保健医療分野について研究を進めています。私は筑波大学在学中、十年後の自分がまさか博士課程に在籍しているなどとは夢にも思いませんでした。当時と今とでは専攻分野は違っているものの、当時は学術の道を博士課程に進学して究めることは自分とは対極のことであるように思っていましたし、何より向いていないと思っていたからです。実際、紆余曲折を経て現在の所属になっているわけですが、結果的にこの十年間を振り返ってみると、基本的に自分の意思で今の自分に至るまでの選択をしてきたわけですが、それに加えて世の中本当に小さなきっかけが積もり積もって大きく変わるものだと思うを得ません。

私が筑波大学で得た最大の宝は、つくばという地で出会った友人と恩師をはじめとする先輩方だと思っています。入学して間もなく知り合った生物学類の友人たち。朝も、昼も、夜も、そして試験前は明け方まで共に過ごし、授業を補足し合うのみならず、夢を語り、彼らの様々な価値観に多大な影響を受けました。他学類の友人も、とても貴重な存在です。そもそも人間という生き物に興味があって生物学類に入学した私でしたから、専攻が違っただけで随分と違うその価値観や考え方に随分と魅了させられました。また、恩師をはじめとする先輩方からも多大な影響を受けました。人は見た目が9割といますが、わたしは随分と外見のことで不都合が生じた学生時代を過ごしたと思っています。し

かし、まず外見で判断されるが故、そしてわたしはその時点である程度の不利が生じていたと認識していたが故、プロセスも重要ではあるけれど、皆が納得するようなアウトプットを出すことの重要性を学びました。そして大学4年のある日、マンチェスター大学への交換留学から帰国したばかりの友人との会話で、私の人生は大きく変わります。この僅か数分の会話がきっかけで、私はロンドン大学で修士課程を遂行することを決めました。在学中はバングラデシュのスラム街で寝泊りしながら研究を行い、SARSが流行真っ只中の時期にWHOでのインターンも経験しました。帰国後、一旦民間企業へ就職したものの、社会人として働き出して2年目に、今度はロンドン大学での友人とのちょっとしたやりとりがきっかけで、結果的に現所属の教授と出会うことになり、今の私がいます。

こうして振り返ってみると、私のこれまでの人生は自分一人の力で切り拓いてきたものでは決してなく、寧ろ沢山の貴重な友人や恩師をはじめとする先輩方がいて、彼等からの沢山の刺激があったからこそ見出せてきた道だと思っています。但し、たとえ代わりに沢山のチャンスが転がっていても、その沢山の選択肢の中からこれだと思えるものを選び出し、自分のものにするのはなかなか容易ではありません。そして、それを成し得るには、何よりも自分自身を信じる力が必要だと思っています。勿論、家族や友人など、自分を支えてくれる人の力は多大ですが、結果的に誰が何を言おうと決断するのは自分自身だからです。人間を含め、生き物が新しい環境に遭遇し、選択し、適応してゆくことはなかなか簡単にいくことではありません。しかし、新しい環境に飛び込もうとするとき、飛び込んでゆくとき、自分自身を信じてあげることで、きっと何かが変わってくると思います。

時間というものは生きとし生けるものに平等に過ぎてゆきますが、その時間を有意義に過ごすかそうでないかは、自分次第でしょう。在学中の皆さんには、将来の自分の立ち位置を見据えると同時に、今、この瞬間にしかできないことを十分に満喫して欲しいと思います。そして既に社会人となっている皆さんには、今現在の生活を守り抜くことだけではなく、ときには十年前の自分を振り返りつつ、より今の自分を高められるような、例えば新しいことに挑戦してみるような、心の力を養っていただきたいと思います。また十年後に今の自分を振り返り、皆さんが納得のいく時間を過ごすことができたと思えること祈りつつ、本投稿の結びとしたいと思います。

Communicated by Jun-ichi Hayashi, Received May 19, 2008.